

「千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会」

設立趣旨

千曲川の自然環境は標高差に起因する気象条件により、生育する植物相は多様で、それらを生息環境とした動物相も多岐にわたる。河川敷には砂礫河原、ヨシ原等がみられ、多くの鳥類が生息し、瀬・淵やワンド・水路等の水域には多様な魚類が生息する河川環境である。

しかし、河川砂利採取等の影響により、低水路と高水敷の比高差が拡大し、冠水頻度の低い高水敷部ではハリエンジュが早い速度で大群落を形成し、洪水の流下を阻害するほか、特定外来生物に指定されているアレチウリが在来植物を覆いつくし枯死させるなど外来植物の拡大が河川管理上及び生物多様性の保全上課題となっている。

また、低水路部では流れが固定し水深が増すことで早瀬が減少し、アユ等の魚類への生息環境への影響も懸念されている。

千曲川河川事務所では、これらの課題を解消するため、特に外来種の拡大が顕著である犀川合流点から千曲川本川上流部の千曲川中流域と呼ばれる区間において、自然再生事業により今後約 10 年間にわたり河道整正による砂礫河原再生を計画している。

事業実施にあたり、沿川住民等の関係者や学識者と連携・協働をしつつ、総合的、効果的かつ効率的な事業推進を図ること及び砂礫河原の保全・再生、外来植物の拡大抑制に効果的な河川管理手法の確立を目的に本検討会を設立するものである。